

東大阪中央ロータリークラブ

創立 昭和47年2月20日
例会日 毎週月曜日 12:30~
例会場所 シェラトン都ホテル大阪
事務所 大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-38
〒543-0027 ロイヤルパークス桃坂1112号
TEL. 06(6772)2320
FAX. 06(6772)2327
E-mail:hcrc@at.wakwak.com



会長 切石博之
会長エレクト 浅野光男
副会長 宮崎康治
幹事 細川勝治
会報委員長 岡田忠彦

BUILDING COMMUNITIES BRIDGING CONTINENTS

地域を育み大陸をつなぐ

2010~2011年度 国際ロータリー会長 レイ・クリンギンスミス

第1805例会 平成23年4月18日(月曜日) 第34号

本日の例会

4月18日(月)第3例会

- ◎ソング 「四つのテスト」
- ◎卓話 「最近思う事」
(担当:三木武志会員)
- ◎本日の献立 松花堂弁当

次回の例会

4月25日(月)第4例会

- ◎卓話 「E.V車(電気自動車)について」
(担当:岩崎史郎会員)
- ◎本日の献立 フランス料理

前回の例会記録

4月11日(月)第2例会

- ◎ビジター 大阪東RC 野村良男氏

会長挨拶

会長 切石博之

今日は4月11日です。丁度1ヵ月前の金曜日に悲劇は起きてしまいました。いまだ、色々な被害の数値定まらず、被災者への支援方針定まらず、復興への基本方針定まらずであります。大変残念であります。思えば、大正12年9月1日の関東大震災の復興に大胆な指揮をとった、かの「後藤新平」の如き男気ある政治家は、日本にいないのでしょうか。折角、英雄になれるチャンスと思うのですが。その「後藤新平」の事を少しお話させて頂きま

す。彼は明治・大正・昭和初期にかけての医師・官僚・政治家であります。経歴は、

台湾総督府民政長官
満州鉄道初代総裁
逓信大臣・内務大臣・外務大臣
東京市第7代市長
ボーイスカウト日本連盟初代総長
東京放送局(NHK)初代総裁

等を歴任した人物であります。

関東大震災の直後に組閣された、第2次山本権兵衛内閣で、内務大臣兼帝都復興院総裁として震災復興計画を立案しました。それは、大規模な区画整理と公園・幹線道路の整備を伴うもので、当時の国家予算の1年分と同額の13億円を予算計上しました。余りにも巨額の金額であった為、財界等の猛反対にあい承認されたのは5億7,500万円でありました。

計画は縮小されたものの、現在の東京の都市骨格、公園や公共施設の整備がなされ、東京の幹線道路網の大きな部分は後藤に負っているといわれています。

「後藤新平」が死ぬ前に残した言葉は、

「よく聞け、金を遺して死ぬ者は下だ。仕事を残して死ぬ者は中だ。人を残して死ぬ者は上だ。よく覚えておけ」でありました。今日の俳句は

花吹雪く真っ只中の静寂かな 東光

幹事報告

幹事 細川勝治

1. 4月7日(木)に鹿港ロータリークラブ、郭会長から佐井国際奉仕委員長に東北地方太平洋沖地震の義援金について連絡があり、原子力発電での事故によって、日本へ行く希望者がいないため、松本西南ロータリークラブと当クラブには義援金を送金していただくことになりました。後日、鹿港ロータリークラブのほうに義援金の使途を報告させていただきます。
2. 東北地方太平洋沖地震 義援金のお振込の願いをポストに配布していますので、宜しくお願い致します。
3. 次回、4月18日(月)例会終了後、次年度第1回クラブ協議会及び2011～2012年度第1回事前理事会を3階 三笠の間で開催致します。次年度理事役員、各委員会委員長各位には宜しくお願い致します。
4. 5月23日(月)の例会は年間プログラムでは休会になっていましたが、春の家族会が中止になりましたので、通常通り、例会を開催致します。ご確認をお願い致します。
5. 5月8日(日)に開催されます「東大阪市民ふれあい祭り」のパレードに参加をお願い致します。回覧を回しています。

出席報告

松浦委員

本日の会員数	39名
本日の出席者数	28名
本日の出席規定適用免除会員	13名
本日の出席率	80.00%
3月28日の修正出席率	86.11%

SAAニコニコ箱報告

岡本副SAA

- 切石会長 被災1ヶ月、お見舞いします。
- 瀧田会員 マスターズを3時すぎから見ている、今日は眠いです。遼が20位3アンダー、アマの松山が27位でした。よくやったと感激しました。
- 宮田会員 4月14日(木)の献血運動実施にご協力をお願い申し上げます。
- 松岡会員 いつもお世話になり、ありがとうございます。早く過敏症の時期終わってほしいです。

卓話 「献血事業の現状と今後の課題について」

大阪府赤十字血液センター

献血部長 小川敏彦様

平素は、献血事業へのご理解とご協力を賜り誠に有り難く感謝申し上げます。お蔭様で、大阪府におきましては平成19年度以降、年々献血協力者数が増加傾向にあり、府内で必要とされます輸血用血液も概ね確保可能な状況となってきております。

しかしながら、近年では高齢化と医療技術の進歩によりまして血液の使用量も大きく増加している傾向がございます。輸血を受けられる患者さんを年代別で見ると、50歳以上の方が全体の80%以上を占めておりますが、一方、献血協力者では約80%が50歳未満という状況でありまして、正に若い人たちが高齢者患者さんの医療を支えている現状となっております。

また、将来の人口推移としては、平成30年までには生産年齢人口(15～64歳)が平成17年度よりも約1,000万人減少するとの推計値も出されていることから、今後、更に少子高齢化が進んでまいりますと、献血基盤となっている若者層の献血協力が得られなくなるのではとの危惧を感じているところであります。

このような状況に対して、国は将来の輸血用血液の安定確保を図るために、「献血推進2014」と銘打って、若年層の献血者の増加や安定的な集団献血の確保、そして複数回献血の増加などの新たな中期目標を示しました。

日本赤十字社はこれらの目標を達成していくために、特に若年者層を対象とした具体的な対策を構築して全国的に動き出しているところであります。

最後に、今回、東北地方を中心に発生いたしました「東日本大震災」では各地に未曾有の被害を齎したところがありますが、これに対しましても日本赤十字では血液製剤の支援を始めとして、全国赤十字職員を救援活動要員として現地に派遣(3月31日段階で557班)して救護活動にあたっているところであります。

赤十字といたしましても、被害住民の皆様に対して心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を心よりお祈りいたしております。

本日は、例会の貴重なお時間をお借りして卓話をさせていただく機会を頂きましたことに重ねてお礼申し上げます。